



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所 東  
コード番号 4259 URL <http://exawizards.com>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石山 洸  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート統括部長 (氏名) 藤原 弘卓 TEL 03-6453-0510  
四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,622	133.0	△287	-	△285	-	△272	-
2022年3月期第2四半期	1,971	-	△329	-	△336	-	△388	-

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △284百万円 (-%) 2022年3月期第2四半期 △397百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△3.36	-
2022年3月期第2四半期	△5.15	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	7,601	6,413	83.9
2022年3月期	7,865	6,633	83.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 6,381百万円 2022年3月期 6,589百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000～ 6,500	45.5～ 35.1	50～1	-	50～1	-	50～1	-	0.63～0.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	81,481,200株	2022年3月期	79,928,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	-株	2022年3月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	81,127,317株	2022年3月期2Q	75,308,000株

（注）1. 当社は、2021年8月28日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「期末発行済株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、AIプラットフォーム事業においては、顧客課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新を実現し続けることをめざして事業を推進しています。またAIプロダクト事業においては、広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題を解決することをめざして事業を推進しています。

当社グループが事業を展開するデジタル・トランスフォーメーション（DX）及びAI活用に係る領域では、DXの推進にむけての企業投資意欲が高まっており、AIプラットフォーム事業、AIプロダクト事業の双方で顧客企業から旺盛な新規受注が期待できる良好な事業環境が継続しています。

#### (経営成績)

##### 売上高

当第2四半期連結累計期間における売上高は2,622百万円（前年同期比+33.0%）となりました。これは主に、AIを用いたDX支援やAIプロジェクトによるイノベーション創出案件を多数の大手企業と取り組んだことにより、顧客数が増加したことによるものです。

##### 売上原価、売上総利益

当第2四半期連結累計期間における売上原価は1,131百万円（前年同期比+44.4%）となりました。これは主に、人件費等及びソフトウェアの減価償却費が増加したことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は1,490百万円（前年同期比+25.5%）、売上総利益率は56.8%となりました。

##### 販売費及び一般管理費、営業損益

当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は1,777百万円（前年同期比+17.2%）となりました。これは主に、人件費等が増加したことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業損失は287百万円（前年同期は329百万円の営業損失）となりました。

##### 営業外損益、経常損益

当第2四半期連結累計期間の営業外収益は2百万円となりました。営業外費用は0百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経常損失は285百万円（前年同期は336百万円の経常損失）となりました。

##### 特別損益、親会社株主に帰属する四半期純損益

当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は272百万円（前年同期は382百万円の税金等調整前四半期純損失）となりました。特別利益として、当第1四半期にAIプロダクト事業に属する一部事業の譲渡に伴う利益として13百万円を計上しています。

また、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は、法人税等の合計として11百万円計上したことにより、272百万円（前年同期は388百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。なお、当連結会計年度より法人税のグループ通算制度を導入し、子会社間の利益・損失を通算して税額計算を行っております。

## (セグメント業績)

AIプラットフォーム事業

当第2四半期連結累計期間においては、機械学習・深層学習及び統計学などを用いた画像・データ解析技術等を活用したAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組みました。AIを用いたDX支援に関する企業の強いニーズも後押しとなり、取引社数が増加しました。

この結果、売上高は2,301百万円（前年同期比+32.6%）、売上総利益は1,382百万円（前年同期比+22.4%）、売上総利益率は60.1%、営業利益は187百万円（前年同期比-10.7%）、売上高に占める長期継続顧客(注1)売上の比率は75.2%となりました。

AIプロダクト事業

当第2四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、新たなサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」を中心に導入企業数が増加しました。

ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト」「CareWiz ハナスト」が、それぞれのパートナー企業との協業により、販売拡大が進みました。

一方で、組織拡大に伴う人員増加、プロダクトの開発に係る先行投資に伴い、売上原価の人件費等が増加しました。

この結果、売上高は320百万円（前年同期比+36.0%）、売上総利益は107百万円（前年同期比+83.8%）、売上総利益率は33.6%、営業損失は474百万円（前年同期は539百万円の営業損失）となりました。

## (注)

1. AIプラットフォーム事業において、当社が4四半期以上連続で契約している顧客（exaBase コミュニティによる収益等を除く）

## (2) 財政状態に関する説明

資産

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,601百万円となり、前連結会計年度末に比べ264百万円減少いたしました。これは主に、ソフトウェアの増加等により無形固定資産が214百万円増加した一方で、現金及び預金、その他流動資産がそれぞれ336百万円、92百万円減少したことによるものであります。

負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,187百万円となり、前連結会計年度末に比べ44百万円減少いたしました。これは主に、未払費用が人員増加に伴う給与関連費用等により45百万円増加した一方で、未払法人税等やその他でそれぞれ28百万円、47百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は6,413百万円となり、前連結会計年度末に比べ219百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失272百万円を計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ336百万円減少し、5,201百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは42百万円の収入（前年同期は120百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失272百万円等の減少要因があった一方で、減価償却費171百万円、助成金の受取額95百万円ならびに売上債権の減少73百万円等の増加要因があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは423百万円の支出（前年同期は473百万円の支出）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出398百万円等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは44百万円の収入（前年同期は49百万円の収入）となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入64百万円等によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想については、2022年5月11日に開示した連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,537	5,201
売掛金及び契約資産	914	839
その他	183	90
流動資産合計	6,636	6,131
固定資産		
有形固定資産	126	150
無形固定資産		
のれん	212	186
ソフトウェア	594	835
その他	0	0
無形固定資産合計	807	1,021
投資その他の資産	295	297
固定資産合計	1,229	1,469
資産合計	7,865	7,601
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内償還予定の社債	6	3
1年内返済予定の長期借入金	29	22
未払金	212	219
未払費用	254	299
未払法人税等	71	43
その他	250	202
流動負債合計	824	790
固定負債		
長期借入金	310	300
退職給付に係る負債	58	57
資産除去債務	39	39
固定負債合計	408	397
負債合計	1,232	1,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,274	2,306
資本剰余金	5,059	4,456
利益剰余金	△744	△381
株主資本合計	6,589	6,381
新株予約権	3	3
非支配株主持分	40	29
純資産合計	6,633	6,413
負債純資産合計	7,865	7,601



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	1,971	2,622
売上原価	783	1,131
売上総利益	1,187	1,490
販売費及び一般管理費	1,517	1,777
営業損失(△)	△329	△287
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
助成金収入	1	1
その他	0	0
営業外収益合計	2	2
営業外費用		
支払利息	3	0
為替差損	3	0
その他	2	-
営業外費用合計	9	0
経常損失(△)	△336	△285
特別利益		
事業譲渡益	-	13
特別利益合計	-	13
特別損失		
固定資産売却損	2	-
減損損失	3	-
関係会社整理損	39	-
特別損失合計	45	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△382	△272
法人税、住民税及び事業税	6	13
法人税等調整額	5	△1
法人税等合計	11	11
四半期純損失(△)	△393	△284
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	△11
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△388	△272

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△393	△284
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△4	-
その他の包括利益合計	△4	-
四半期包括利益	△397	△284
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△392	△272
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△11

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△382	△272
減価償却費	104	171
のれん償却額	21	25
固定資産除却損	2	-
減損損失	3	-
事業譲渡損益(△は益)	-	△13
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	3	0
為替差損益(△は益)	3	-
助成金収入	△1	△1
売上債権の増減額(△は増加)	△11	73
その他の流動資産の増減額(△は増加)	3	△1
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	63	51
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	-	△22
その他の流動負債の増減額(△は減少)	9	△49
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△9	△0
その他	0	4
<b>小計</b>	<b>△187</b>	<b>△33</b>
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△3	△0
助成金の受取額	69	95
法人税等の支払額	△6	△19
法人税等の還付額	7	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△120</b>	<b>42</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△60	△37
有形固定資産の売却による収入	3	-
無形固定資産の取得による支出	△174	△398
関係会社株式の取得による支出	△32	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△230	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	△23	-
事業譲渡による収入	-	16
保険積立金の積立による支出	△11	△5
保険積立金の払戻による収入	4	-
敷金及び保証金の差入による支出	△67	-
敷金及び保証金の回収による収入	120	1
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△473</b>	<b>△423</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△28	△16
社債の償還による支出	△3	△3
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	64
非支配株主からの払込みによる収入	78	-
新株予約権の発行による収入	3	-
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>49</b>	<b>44</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	-
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△544</b>	<b>△336</b>
現金及び現金同等物の期首残高	2,337	5,537
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>1,793</b>	<b>5,201</b>

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月28日開催の定時株主総会において、資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行うことを決議し、2022年7月8日付でその効力が発生しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本準備金が1,735百万円減少し、この減少額全額をその他資本剰余金に振り替えました。また、資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金635百万円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

また、ストック・オプションの行使による新株発行により資本金が32百万円、資本準備金が32百万円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,306百万円、資本剰余金が4,456百万円、利益剰余金が△381百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	AIプラットフォーム 事業	AIプロダクト 事業	計
売上高			
顧客との契約から生じる収益	1,735	235	1,971
外部顧客への売上高	1,735	235	1,971
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,735	235	1,971
セグメント利益又は損失(△)	209	△539	△329

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

AIプラットフォーム事業セグメントにおいて、前第1四半期連結会計期間に、エクスウェア株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんが発生しております。前第2四半期連結累計期間において、当該事象によるのれんの増加額は238百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	AIプラットフォーム 事業	AIプロダクト 事業	計
売上高			
顧客との契約から生じる収益	2,301	320	2,622
外部顧客への売上高	2,301	320	2,622
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,301	320	2,622
セグメント利益又は損失(△)	187	△474	△287

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。